

第 17 回前橋市産業振興ビジョン協議会 議事録

産業振興ビジョン協議会	令和 2 年 1 0 月 2 9 日 (木) 1 0 : 3 0 ~ 1 1 : 3 0	中央公民館 501・502 学習室
出席者	<p>委員 阿部委員、石川委員、小宅委員、鮎澤委員、加藤委員、狩野委員、唐澤委員、唐沢委員、堤委員、中島委員、橋本委員、吉田委員、増田委員、宮崎委員、西巻委員</p> <p>事務局 神山産業経済部長、木村産業政策課長、関口課長補佐、細野室長、粕川課長補佐、にぎわい商業課 細井副参事</p>	
欠席者	足立委員、今村委員、植木委員、茂木委員、吉澤委員	
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 委員の委嘱 3 自己紹介 4 会長及び副会長の選出 5 議題 令和 2 年度改定版 前橋市産業振興ビジョンの進捗について 6 事務連絡 7 閉会 	
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・席次 ・次第 ・前橋市産業振興ビジョン協議会 委員一覧 ・前橋市産業振興ビジョン協議会設置要綱 ・(資料 1) 令和 2 年度改定版 前橋市産業振興ビジョン各施策の進捗状況 ・(参考) 令和 2 年度改定版 前橋市産業振興ビジョン個別事業の概要 	
会議内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 木村課長 <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶、第 16 回協議会における書面開催のお礼。 ・コロナ対策を踏まえた会の実施についてご協力をお願い（席次、時間は 1 時間に短縮等）。 2. 委嘱 木村課長 <ul style="list-style-type: none"> ・任期満了に伴う新たな委嘱について、コロナ対策のため委嘱状交付は実施せず、名簿を確認することで委嘱とさせていただきたい旨説明。 3. 自己紹介 <ul style="list-style-type: none"> ・名簿順で各人の自己紹介。 4. 会長及び副会長の選出 木村課長 <ul style="list-style-type: none"> ・設置要綱に基づいて委員互選により選出する旨説明。 ・ご意見あがらず、事務局案「会長：吉田 勝彦氏（群馬県中小企業団体中央会会長）、副会長：石 	

川 利一氏（公益財団法人群馬県産業支援機構理事長）」を提案、異議なしの声をいただき、決定。

吉田会長（就任挨拶）

・今回で4期目となりました、引き続きよろしく申し上げます。この委員会が一番活発な意見が出る委員会とのことですので、今回もできるだけ活発な意見を皆さまよろしく申し上げます。

石川副会長（就任挨拶）

・副会長に選任いただきました石川と申します、よろしくお願いいいたします。群馬県産業支援機構で小規模事業者の支援をしております、団体は現在87名ほどの職員がおりまして、うちプロパー職員が15名で、残りの約70名が専門家ということで各事業に分かれて支援をしております。特に今大きな課題は事業承継の関係で、半分以上の事業者さんがまだ後継者が決まっていない、あるいは後継者がいないという状況です。後継者支援は、事業承継ネットワーク事務局や、引継支援センター等を利用し、相談に乗っています。コロナの関係では再生支援や経営改善についても相談が多くあります。実際の企業さんの経営課題のご相談をさせていただいておりますので、そのような経験が活かさればと思っております。会長を助けて円滑な議事ができるようサポートできたらと思っております。よろしく申し上げます。

神山部長（事務局代表挨拶）

・この4月から産業経済部でお世話になっております神山と申します、よろしくお願いいいたします。改定版の産業振興ビジョンは3月に策定されました。3月は新型コロナウイルスの感染が拡大した時期でございますが、コロナの影響は改定版には反映されておりません。これに関しては、本日このような協議会の場で、コロナの影響、及び市が行ってきたことを説明させていただきます。これに対して委員さんからご意見いただきまして、整理し、どのように反映できるか検討し、このビジョンの目標に取り組んでいきたいと考えております。本日は限られた時間ですがよろしく申し上げます。

5. 議題

木村課長

・吉田会長を議事として進行を依頼。

吉田会長

・「令和2年度改定版 前橋市産業振興ビジョンの進捗について」事務局に説明依頼。

関口補佐

・「資料1」に沿って、「B」（当初の目標から進捗が遅れているもの）について状況を説明。加えて以下の点を補足。

・戦略4「起業家の創出と人材育成の進捗状況」について、資料は7月の実績ですが、最近融資の利用者や窓口相談件数が増えているとのことです。起業家交流会は中止とさせていただきましたが、創業の相談会について、商工会議所や金融機関、中小企業診断士や税理士の先生などと協力し、感染症対策をしっかりと行いながら実施したいと考えております。

・新型コロナウイルスの取組（資料1P5）の中では、令和2年度設備投資促進補助金についても、6月と10月に申請受付をし、多くの申込により公開抽選となりましたが、新型コロナウイルス感染症の市内影響がある中で、積極的に事業設備を行う事業者への緊急的な支援として3回目として11月30日から12月4日に追加募集を検討し、HPでも掲示させていただいております。産業

界のみなさまの要望を取り入れながら、このような経済対策を実施しております。

・市内事業者様の状況を踏まえながら様々な事業を実施しておりますが、配布させていただいております改定版産業振興ビジョンにおきましては、戦略と目標について、新型コロナウイルス感染症に関する経済対策等は掲載しておりませんが、終息に向かい本来の経済へ戻るために、このような様々な対策を行い、産業振興ビジョンの目標に向かって進めていきたいと考えております。

吉田会長

・説明に対する意見を伺い。

中島委員

・資料1P3、1-①の説明文中「令和2年度」は「3」の間違いではないか。→訂正してお詫び
・資料1P4、1-④IT化推進補助金について、補正対応いただきありがとうございます。コロナ禍でデジタル化が非常に遅れていることが浮き彫りになっていますが、今DX（デジタルトランスメーション）への移行が非常に進んでいる中で、ITのデジタル技術活用のための補助メニュー拡充が必要ではないか。

・資料1P5、1-⑥「(5) 事業継続強化計画の策定支援」について、今日現在の状況は、認定企業数が2社、策定に向けた検討中が4社です。

・商工会議所では経営指導員が中小企業に経営支援をしているが、そのバイブルとなる経営発達支援計画が当初定めたものが今年度末で終了します。この春先から見直しを実施し、令和3年から5カ年の新たな計画策定を行いました。これにつきましては、市と法律改正におきまして、市の指導を受けながら、このビジョンの中にも入ってくるのかと思います。

・資料1P5、コロナ関係について、群馬県が7月の中旬からストップコロナの認定制度を始めました。その現地調査と事前審査会を県内全ての商工会が担っており、その現地調査をする中で、このニューノーマル創出支援事業補助金は非常に事業者や個人の経営者に喜ばれております。予算額の増額なども必要なのかなと思います。

・資料1P10、4-②について、コロナによって事業継続の意欲を喪失してしまう、あるいは廃業してしまう事業者が多く出てしまうことが懸念されております。商工会議所の経営指導員15名が東西南北に分かれて、倒産や事業廃止にならないような経営支援、いわゆる伴走型支援をしております。今後也是可以は支援機関と連携強化を図りつつ取り組んでいくのが大変重要だと思います。

関口補佐

・ITといいますと、単純に非デジタル化をデジタル化にするという目的だと思いますが、今後はDXということでその後の戦略が必要になる中で、市がこういったサポートを事業者様にしているのかについては引き続き検討していきたいと考えております。こういった対応をしてほしい等ご意見ありましたら、我々も検討していきたいと考えていきたいと思っております。

吉田会長

・DXの話がありましたが、当社もRPAをドコモで始めました。初年度は5百万円、来年以降も拡大すると毎年4百万円かかる。そのようなところを何とかしたいと思うが、うちには人材がない。人材がいればもっと安くできる。人材育成については是非取り組んでもらいたいと思っております。

石川副会長

・創業関係について、コロナによって進んでいないとのことで、ご説明の部分の影響はあるのかな

と思います。当団体は6年間で毎年6千万円の補助が出る起業支援金という補助金があります。1社上限2百万円で30社、1/2上限。4百万円以上の補助事業費があれば2百万円の補助が出るというものです。去年から始まり今年で2年目ですが、30社の募集で70社以上の応募がありました。今年度は応募が少ないかなと思っていましたが、応募者は多く、コロナに関わらず起業したいという方もいらっしゃるので、そのあたりについては引き続き応援していきたいです。また、当団体だけでなく保証協会さんも創業支援をされていますし、金融機関も皆さんやられているので、支援機関の連携というかたちで、市の方が連携の情報共有や提供をしていければいいのかなと思いました。

・先ほど中島委員さんからもありました、デジタル化については、企業さんもかなり真剣に考えており、当団体の相談年間1万件あたり、8割以上が販路開拓に分類されるような相談が中心です。販路開拓は様々な分野に分類されますが、現在展示場が中止になりオンライン化が進む中で、売上が落ちたところをどのように補填していこうかという相談が多く、SNSやインターネットを使っての販路開拓に関心が高い企業さんが多いので、そのような部分の支援というか施策を作っていけたら良いのかなと思います。あわせて人材については、どうしてもある程度規模が小さい企業さんだと、分かる人材がいなくて、少ないところが多いです。インターネットを使って動画配信PRしたいが、やり方が分からないなど、そういった相談も多いので、何百万も投資はできないけれど、できることから、金額的費用負担の少ないところからやっていきたい意欲ある企業さんを応援できるような、そういう制度が必要であると思います。

阿部委員

・昨日の上毛新聞で保証の承諾状況が掲載されていました。補足説明をさせていただければと思います。保証協会は70年の歴史がある中で、半年間で4千億円を超える承諾は過去ありませんでした。過去最高の承諾は、それだけ今回のコロナが厳しい状況であることが分かります。また、独自で分析してみたところ、資本金5百万円以下及び個人の事業者が、全体の申込のうち67%でした。従業員が2人以下の事業者は9,400社で、全体の申込の55%です。半分以上の方が従業員2人以下と、小規模零細企業であると実感しております。業種をみると、建設業、製造業、卸、小売、サービス(宿泊等)で全体の70%の申し込み。前橋市だけでみると、建設業が742社で最も多く、続いて卸小売が608社、製造業298社、サービス(宿泊等)294社。宿泊業や飲食業関係が非常に疲弊しており厳しい状況です。今後、コロナ禍がいつまで続くのかということもありますが、厳しい状況を考えると、中小企業においては人を雇ってられない、解雇あるいは休職ということになりますので、前橋市においても「資料1P4」にある人材の獲得については、獲得より離職。なかなか次の仕事が見つからないという状況になると思いますので、離職についても注意を払ってもらいたい。

小宅委員

・産業技術センター所長になる前に、3年間IOT担当というものをしておりました。支援してきた企業さんの中には関東経済産業局で事例発表がされ、講演に引っ張りだこになる社長さんが出てくるなど、部分的には良いだろうとなっていました。広まっていない状況を踏まえ、広める取り組みなどをしていました。

・長岡市から説明してほしいと依頼を受け、お伺いした中で、群馬県にもありますけれどもイノベーションハブが6つ立ち上がっていました。私がお伺いしたときはロボットイノベーションハブが立ち上がっていました。イノベーションハブについては県単位でということを考えてしまうのですが、長岡市によると、市の単位ぐらいが丁度良い、あまり広いと仲間意識が生まれないとのことでした。50名程が参加されておりましたが、その中でロボット化したいという企業2社のプレ

ゼンテーションに対して、長岡技術大学や長岡高専の先生や(株)不二越(産業用ロボット製造業者)の方が助言をし、進めていくものでした。群馬県産業技術センターとしては、前橋市もイノベーションハブというようなことをすることがあれば、IOTについては助言させていただくという事は十分できると思いますし、私の支援先企業も、お金が全然かからないという訳にはいかず毎年3百万円程かかっていますが、それ以上の効果が出たと言っていたいておまして、機械が余るようになったとのことで、長岡市の方が来月11月17、18日泊まり込みで私が支援した企業を見学に来る予定です。もしご興味ありましたらそういったものにも参加いただければと思います。

・また、現在実施しているものでは、IT, IOT, DXで、ITは自動化、IOTは経営に影響するシステム化、DXで世の中を変えるという意味で、世の中を変えるほどのDXを出すのは難しいですが、DXを利用する側においては良いのではないかと。今週締め切りの県のクラウドファンディングについての費用を認めるという補助事業が出ているが、最近かなり興味を持たれる企業が増えている。実際にそのような費用が出るから申し込むのではなく、クラウドファンディングをやってみたいから申し込みたいという方が多く、センターでも支援しようことで、10社しか通りませんが15社を集め、15社エントリーし、その活動を支援しております。その他ご相談などありましたら産業技術センターまでご連絡いただければ対応いたします。

吉田会長

・県と市の支援について一覧で整理した資料についてももしあるようであれば配布をお願いしたい。

小宅委員

・私が気付いたのは、県の施策にあるから市が追従するのではなくて、みなさんと良くなるとういう会は、市を中心にしていただいて、それに県が支援するというスタイルもあるのかなということを長岡市で感じたということです。よろしく願いいたします。

増田委員

・小規模事業者の立場から感じた点について、小規模事業者はいわゆる専門家であり、大量生産には絶対勝てない。富裕層を狙って仕事をしているが、群馬県は富裕層が他県に比べて少なく、企業誘致が最大のところだと思う。前橋は地盤が良く災害にも恵まれているがPRが弱いのではないかと。「資料1P8、1-③」が少し遅れいる点について、もっと巻いていただいて、どんどん費用をかけていただきたい。コロナ禍ではありますが、他県へ行く中で、南海トラフ境界の方が非常に困っており前橋へ来るようPRもしてきましたが、前橋の良さはなかなか広まっていない。しかし小さな行政でも東京へどんどん進出し、県単位ではなく市単位で企業を引っ張ってきているのも見受けられるので、優良企業をどんどん前橋に引っ張ってきてほしい。

・IT, IOT, DXについては、私共もIOT始めましたが、躓いております。乗り越えられる企業と乗り越えられない企業があり、乗り越えられない企業の手助けや施策を考えていただきたいです。当社も群馬高専にお世話になっているが、なかなか商品化するのが難しいです。私はこのような会に参加してもらい、相談するきっかけがあるが、そうではない企業さんについては、どこに相談して良いか分からない、前橋市に来る敷居が高いという声が、私が所属する中小企業家同友会でもあります。年に1回は前橋市ではこのような支援があるということを説明していますが、浸透しない。県であれば市であれ、補助金をやる前の相談があれば来て良いという窓口があれば、もっと伸びようと考えている企業はたくさんあるので、教える窓口が必要ではないか。〇〇の企業は良くやっているから、ことと付き合うと良いなど、上手く導いてほしい。補助事業については抽選で落ちるケースもあるが、少しでも拾っていただくと助かる企業が増えると思います。

細野室長

・企業誘致PRについては、前橋の南部はハザードマップのエリアとなっておりますが、北部は比較的水害が少なく、地震も少ないと感じております。PR不足ということで申し訳ございませんが、今後PRに邁進していきたいと考えており、群馬県さんの東京事務所のお力なども最近いただいております。だいぶ企業さんの引き合いやお問合せもいただいておりますので、ご協力いただきながら取り組んでいきたいと思っております。現在、駒寄スマートICで開発を進めさせていただいており、ハザードマップ洪水のエリア内でもあるので、開発が進んできた段階でPRを進めていきたいと考えております。

木村課長

・ITを含めて市役所に相談するのは敷居が高いという件については、直接市役所へ来ていただかなくても、例えば、こんなところで困っているというような情報を電話一本いただければ、私共の方で御用聞き型企业訪問を実施しており、こちらから困っている方に出向くこともできますので、是非活用していただきたいです。また、このような取り組みがあまり知られていないのであれば、このような窓口をPRしていきたいと考えております。

堤委員

・いろいろな面で前橋市が取り組んでいただいているのは非常にありがたいです。当社でいえば、ジョブセンターを介した、子育て支援の求人で集まる場があったが、就職したいという方はいるのですが、なかなか、女性の方とのマッチングが上手くいかなくて、こちらが思っているような方が就職してくださるような、マッチングできる機会をもっと増やしてほしいと思います。

粕川補佐

・ジョブセンターご活用いただきありがとうございます。ジョブセンターは最近までコロナの影響でセミナー等が実施できなかったのですが、ここ9月頃から徐々にジョブセンターの事業について開始しております。その中で企業との交流会、企業見学会を随時実施しております。そういったものをご活用いただいて、女性とのマッチングを上手く繋げられればと考えております。できればこちらの回数を今後増やす対応ができればと考えております。

狩野委員

・商工会の会員さんは、ほぼ家族従業員の小規模事業者、2名程度で営んでいる方です。IT, IOT, DXについては、そういった事業者については難しい。難しいと感じている事業者は非常に多く、数の多い小さな事業者を支援するための仕組みと、それなりの規模の事業者を支援するための仕組みを分けて支援をしないと、小さな事業者がコロナの関係もあり事業継続できずいろいろな形で廃業しています。支援のやり方、仕組み自体を、内容は一緒でも良いので、変える必要があるのではと思います。小規模事業者という法律ができてから、非常に様子が変わったのと同様に、支援のやり方を工夫するのが重要なのではと考えます。

関口補佐

・一連の支援メニューをしている中で、小規模事業者については、例えば補助金については、補助率を変える等の対応がありますが、その後の内容、企業さんによってIT, IOT, DX等の細かいところを理解していない、先ほどITの説明をさせていただいたときに、非デジタル化をデジタル化するのにはITで、小宅委員さんが言われたようなもっと崇高な考え方もある、そういった

考え方が違うと思いますが、御用聞きや商工会の伴走型支援などで企業さんの色々な意見を聞きながら進めさせていただいております。またそういったご意見をいただきながら、補助率だけでなく、内容の支援について更に細かく、どういった部分について悩んでおられるのか、我々もしっかり意見を聞きながら、施策の方に反映させていけたらと考えております。

6. 事務連絡

関口補佐

・来年の3月に今年度の2回目の協議会を実施したいと考えております。コロナ禍でもあるのでリモートで実施するケースも見受けられますが、市としては対応がなかなかできない状況でありますので、こういった対策をとりながら、みなさんから直接意見を聞く場はかなり有効であると実感しておりますので、3月また開催できたらと考えております。

7. 閉会

木村課長

・少し慌ただしい点もあったかと思いますが、ご意見などありましたら産業政策課まで随時お願いいたします。これにて協議会を終了したいと思います。ありがとうございました。